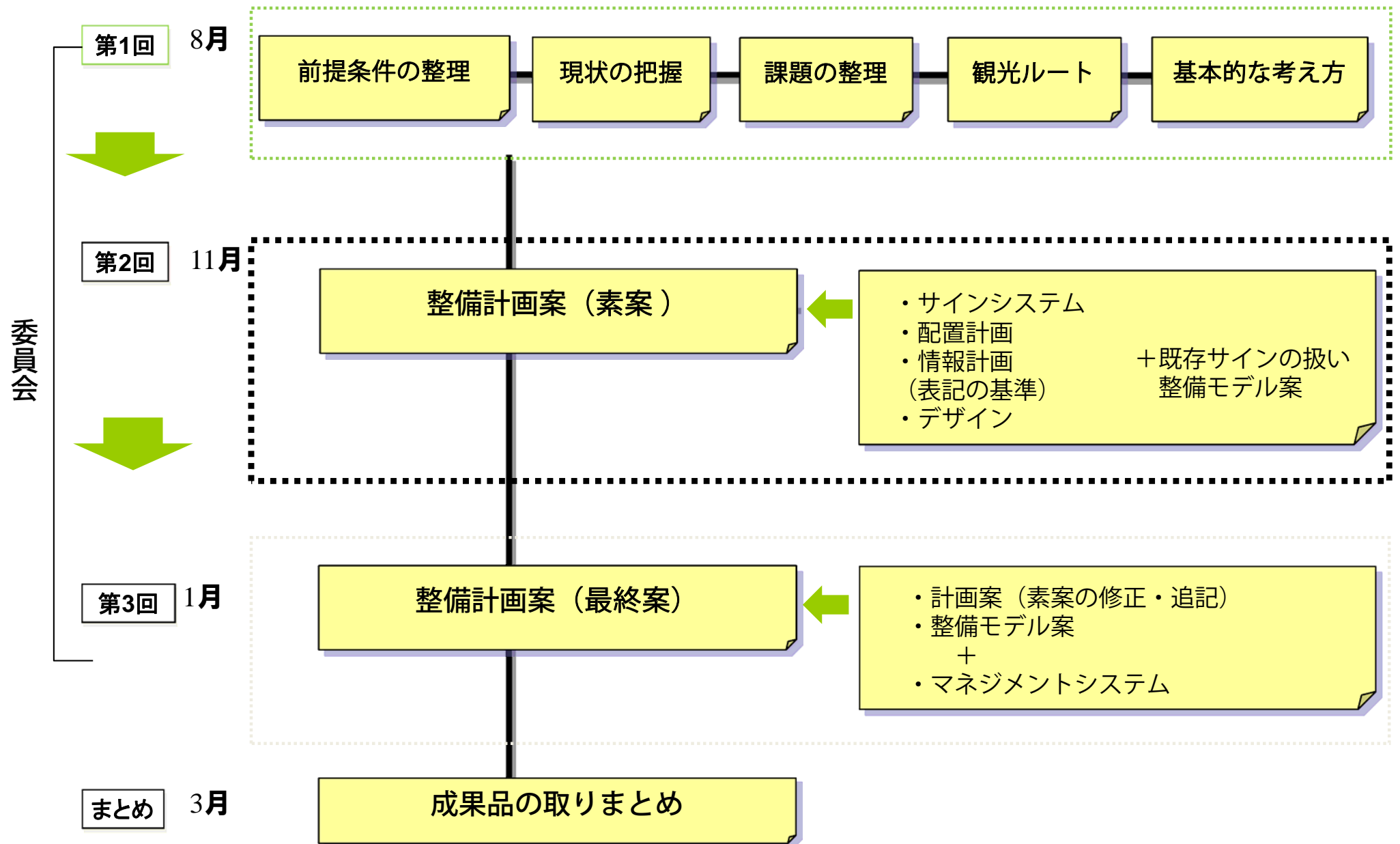


## 第2回 観光案内サイン等整備計画策定委員会

検討資料 2015.11.20

# スケジュール



# 整備計画案（素案）

## ガイドライン

### 1. サインシステム

- 1) 計画するサインの種類
- 2) 案内, 誘導パターン

### 2. 配置計画

- 1) 配置の基準
  - ・配置の考え方
  - ・配置基準
  - ・配置の「方向」の考え方

### 3. 情報計画

- 1) 情報量についての考え方
- 2) 多言語対応の考え方
  - ・対応言語
  - ・表記の方法
- 3) 表記の基準
  - ・書体、ピクトグラム・記号
  - ・掲出位置の基準

### 4. デザイン

- 1) デザインの考え方
  - ・デザインコンセプト
- 2) デザイン案
  - ・必要なサインの抽出
  - ・本体の基本デザイン
  - ・表記の基本デザイン

### 5. 既存サインの扱い

- 1) 基本的な考え方
- 2) リノベーション
  - ・タイプごとのリノベーション

### 6. 整備モデル

- 1) 全体配置計画
- 2) モデル地区整備計画案

## マネジメントシステム

### 7. 運用計画


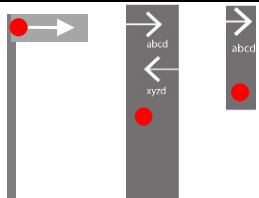

- 1) ガイドラインの活用方策
- 2) 効果検証と振り返り
- 3) サインのメンテナンスシステム

# 1. サインシステム

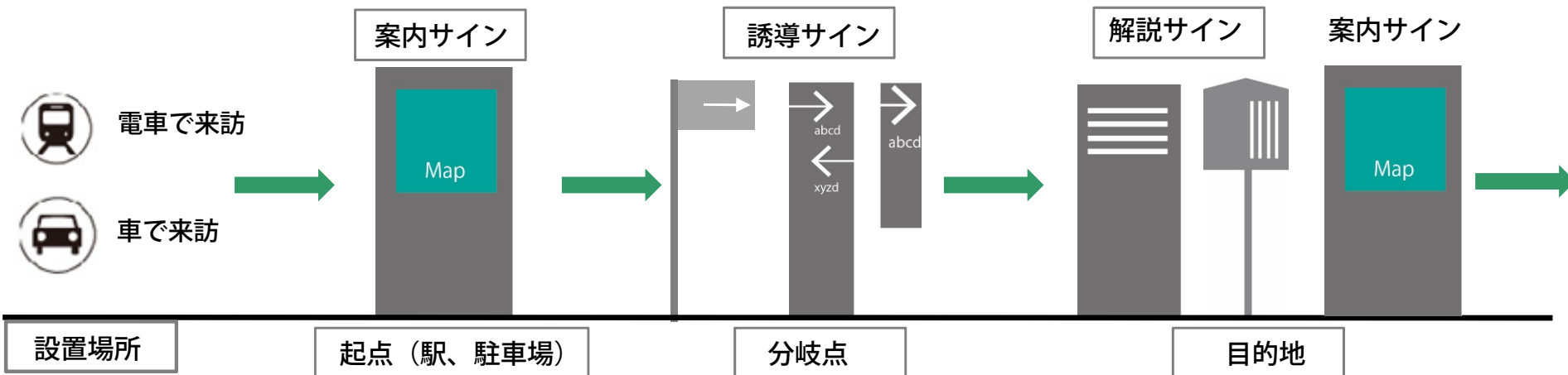
# サインシステム

## 1) 計画するサインの種類と基本となるシステム

本サイン計画において対象とするサインの種類、基本システムを以下に整理する

サインの種類	基本の掲載情報	必要に応じて掲載する情報
地図系  案内サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の案内地図 (付近)</li> <li>● 方位</li> <li>・現在地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺著名地点の誘導</li> </ul>
矢印系  誘導サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の著名地点</li> <li>・周辺の公共交通</li> <li>● 方位</li> </ul>	
記名系 解説系  解説サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設名称</li> <li>・解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺著名地点の誘導</li> </ul>

### ●基本となるシステム サインによる案内、誘導の流れ



# サインシステム

## 2) 案内, 誘導のパターン

サインの案内, 誘導パターンを以下に示す

- 公共交通拠点（鉄道駅）周辺の案内サインで、現在地、方角、目的地との位置関係を大まかに確認する。

\*案内サインの情報と手元マップあるいはスマートフォン等の情報とを確認する。



- ルート上の分岐点で誘導サインと手元マップを確認しながら目的地を目指して移動する。

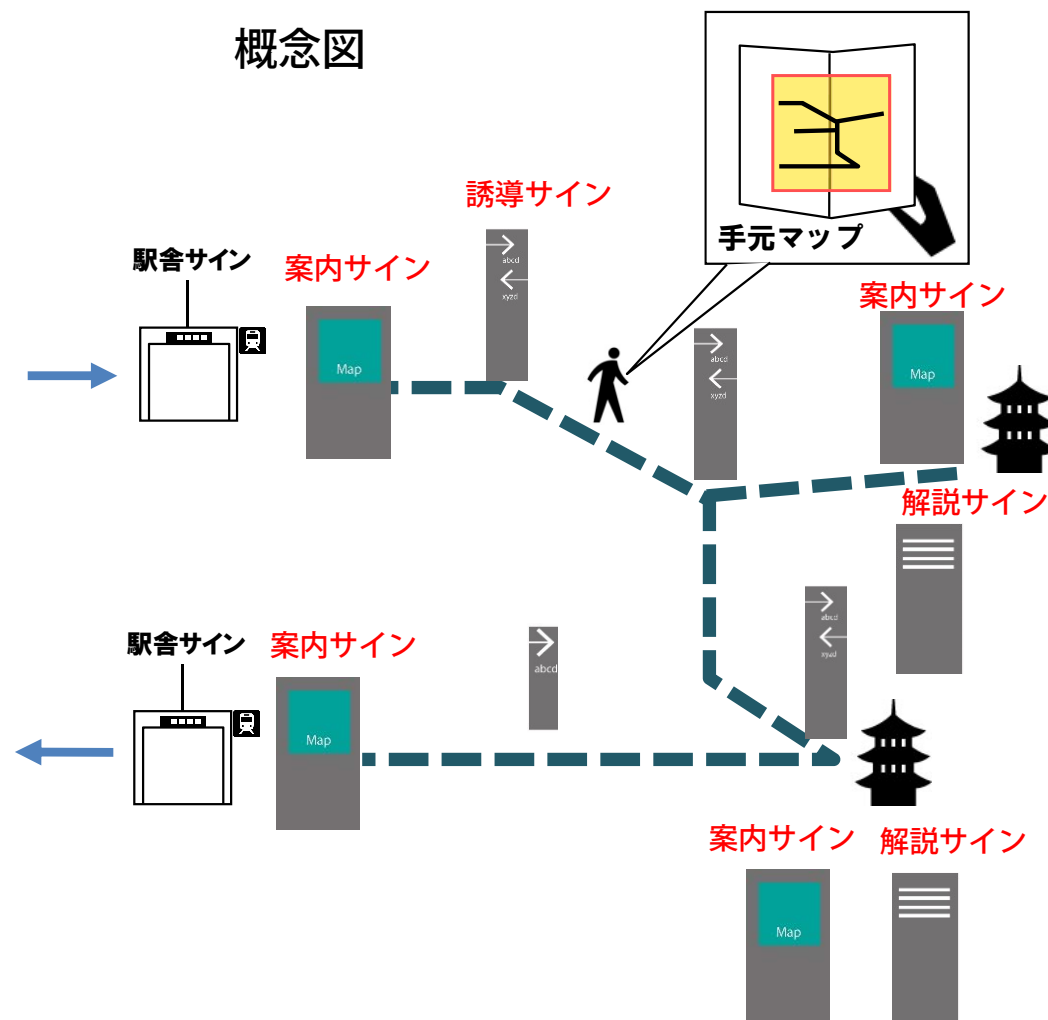
➤ 手元マップに案内サインの位置をプロットすることで、利便性が高まる。



目的地

- 解説サインやwebから情報を得る。
- 目的地周辺の案内サインを確認し、次のルート（目的地）を目指す。

概念図



\*基本的に手元マップあるいはスマートフォン等の情報端末はほとんどの観光客が持っていると考えられる。

## 2. 配置計画



# 配置計画

## 1) 配置の考え方

利用者にわかりやすいサインの配置について以下の考え方を示す

### ●過剰な配置を避ける

- ・既存サインを整理、統合し、最小限必要なサイン配置とする。

### ●利用者が多い場所に必要な情報を配置

- ・公共交通拠点、主要な交差点、著名地点などに配置する。

### ●情報が途切れない配置

- ・主要なルートにあっては情報の連続性を確保する。
- ・散策するまちなかエリアでは最小限必要となる箇所に配置する。

### ●配置のルール化 (○○には○○の情報が必ずある)

- ・最初の一步となる地点には案内サインあるいは誘導サインがある。など。

### ●景観に配慮した配置

- ・まちなみや自然、歴史的景観を阻害する配置としない。


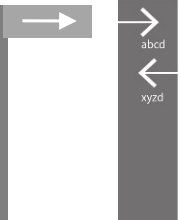
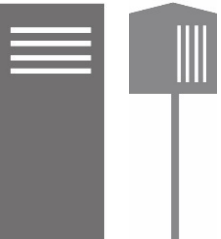
### ●ユニバーサルデザインに配慮した配置

- ・誰にでもわかりやすく、見やすい配置とする。

# 配置計画

## 2) 配置の基準

情報の配置基準を以下に示す（案内サイン・誘導サイン・解説サイン）

種類	設置場所
<b>案内</b> 	<b>地図系</b> <ul style="list-style-type: none"><li>公共交通の起点</li><li>主要な交差点</li><li>目的地（主要な観光地）</li></ul>
<b>誘導</b> 	<b>矢印系</b> <ul style="list-style-type: none"><li>公共交通の起点</li><li>主要な交差点</li><li>主要なルートの分岐点</li><li>まちなかエリア、源治・大吉山エリアのポイント</li></ul>
<b>解説</b> 	<b>記名系 解説系</b> <ul style="list-style-type: none"><li>目的地（主要な観光地）</li><li>まちなかエリア、源治・大吉山エリアの歴史スポット</li></ul>

配置の概念図



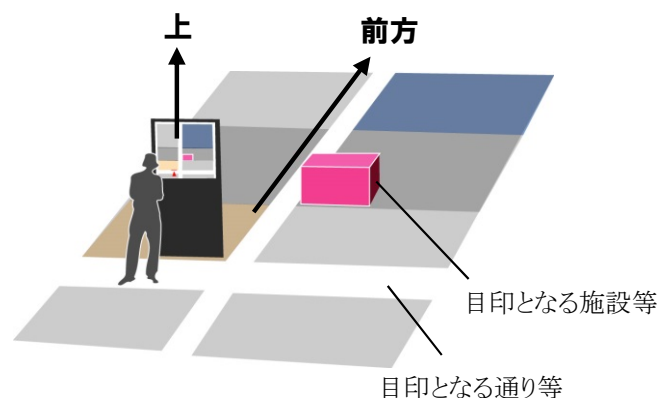
●案内サイン ●誘導サイン ●解説サイン

# 配置計画

## 3) 配置の「方向」の考え方

案内サインおよび誘導サインの配置の「方向」についての基準を以下に示す

案内サイン地図の表示方向

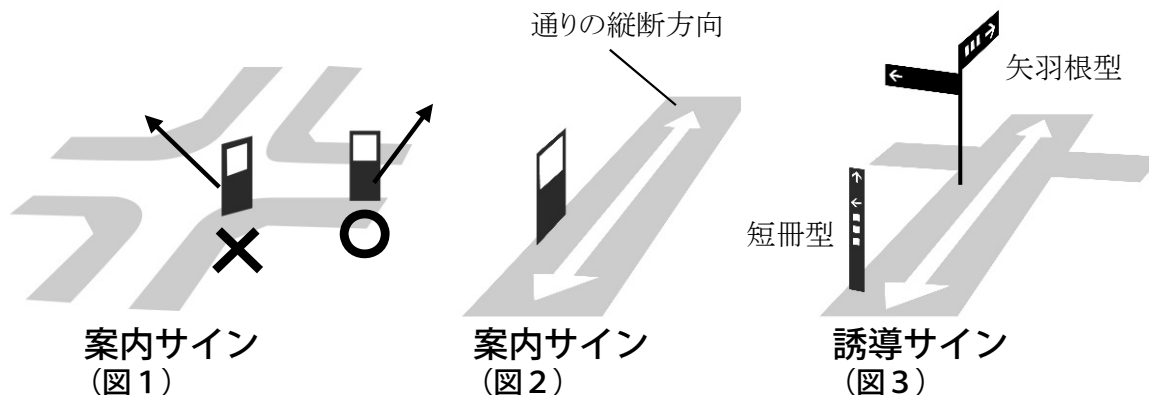


- 案内サインの地図は、実際の地形と地図の表示方向を合わせる。

理由；

- 地図表記（2km四方程度）では、目印となる施設や通りと地図を見比べやすい。
- 自分の立っている方向と地図の方向が一致しているのでわかりやすい。

サインの設置方向



- 交差点部での案内サインの設置向きは、斜め配置としない（通りと平行に設置する）（図1）

理由：通りとの関係があいまいとなり、方向感覚がつかみにくい

- 案内サインの設置向きは、通りの縦断方向に対して水平に設置する（図2）

理由：設置スペースを確保しやすい（歩道幅員を減じない）

：直近の通りとの位置関係がわかりやすい

- 誘導サインは、矢羽根型は表示板面を目的地の方向に向けて設置する。

ただし通りの中間点等設置場所の状況に応じて直交に配置することもある。

短冊型については通りの縦断方向に対し直交して設置する（図3）

理由：矢羽根型～直接目的地を指し示すため、直感的にわかりやすい

：短冊型～表示が歩行者の目に入りやすい。両面表示が可能

# 3. 情報計画

# 情報計画

## 1) 情報量のコントロール（表示内容，配置）

サインの表示の情報量をコントロールし，利用者にわかりやすいサインを目指す

### 考え方

表示内容はわかりやすさを優先して  
情報量をコントロールする

情報の優先順位を明確にする  
その場所で一番重要な情報を絞り込む



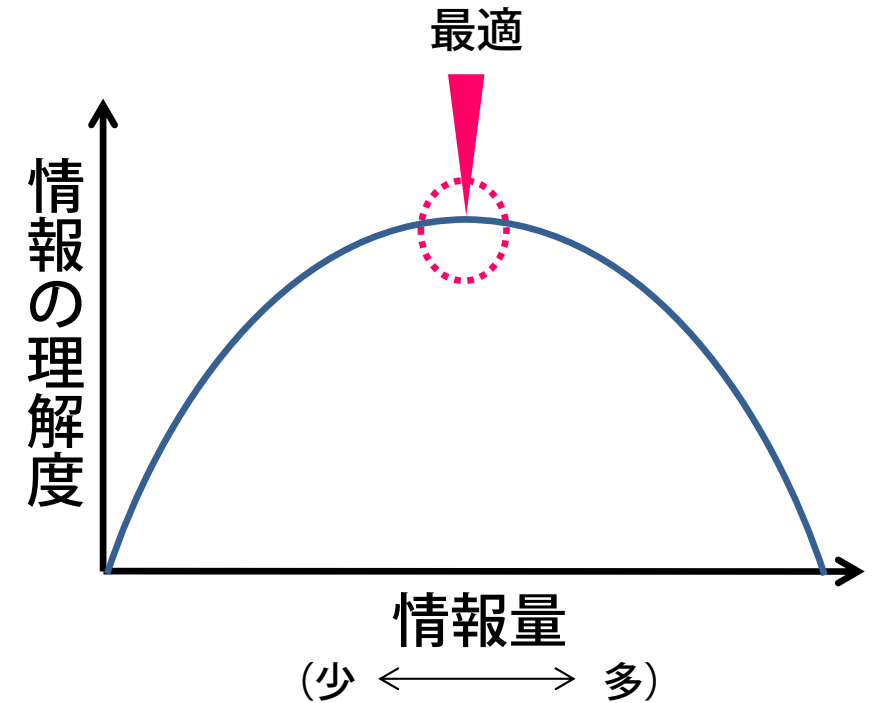
- ・情報量の補完
- ・情報の理解を促す工夫

### 最適な場所での情報配置

- ・起点となる場所で最初の一步を促すサイン等、  
利用者の目線に立った情報提供

### 表示のグラフィックデザインの工夫

- ・統一的なデザイン
- ・ピクトグラム等の図や記号を活用
- ・文字の大きさやレイアウトのメリハリ
- ・ユニバーサルデザインに配慮した配色



### 各種の媒体を用いて相互に補完

- ・手元マップやデジタル情報との連携
- ・QRコードを利用した多言語翻訳システムなどの活用

# 情報計画

## 1) 情報量のコントロール (数量)

各種サインの数量をコントロールし，利用者にわかりやすいサインを目指す

### 考え方

●既存のサインで情報提供が過剰な場合は，不要なサインを撤去する

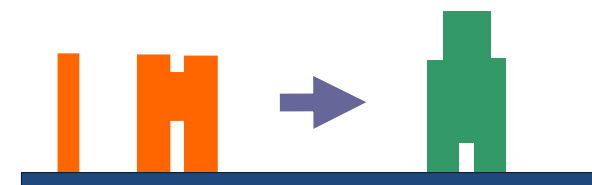
撤去



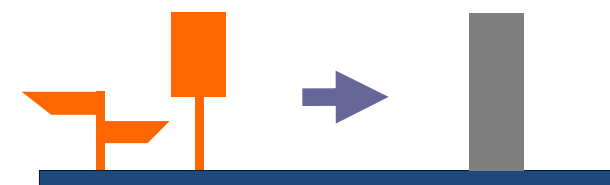
●情報を集約する

- 既存サインをリノベーションすることで、情報の集約化を図る。
- 複数の既存サインを新設サインに置き換えることで、情報の集約化を図る。

集約



既存サインのリノベーション



複数の既存サインを新設サインに置き換え

■ 既存サイン ■ 改修サイン ■ 新設サイン

# 情報計画

## 2) 多言語対応

多言語対応については表示面の大きさと情報量とのバランスを考慮し、以下の方針を立てる

### 対応言語の考え方

多言語対応は原則2か国語表記（日本語・英語）とする。

誘導表記など情報量が限定されているものについては、4か国語または5か国語表記も検討する。

\*4か国語（日本語・英語・中国語（簡体字）・ハングル）、5か国語は中国語の繁体字が加わる。

### ●メリット/デメリットの整理

	メリット	デメリット
2か国語表記 （日本語、英語）	<ul style="list-style-type: none"><li>・4か国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英語に不慣れな人には情報が理解できない場合がある。</li></ul>
2か国語+最小限の外国語表記 （日本語、英語+その他の言語）	<ul style="list-style-type: none"><li>・4か国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。</li><li>・最小限の表記でも、その国の人にはわかりやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・その他の言語を何にするかの判断が必要。</li><li>・設置場所によって、その他の言語を使い分けるとすると、地域によって外国語表記に違いがでてしまう。</li></ul>
4か国語表記（5か国語表記） （日本語、英語、中国語、ハングル） * 宇治市は台湾系の観光客が多いため、中国語は簡体字と繁体字を使用する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・近年来訪者が多い中国系、韓国系の観光客に対して母国語で情報提供できる。</li><li>・もてなしを受けている満足感がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・サイン表示が煩雑、且つ文字の大きさが小さくなる。特に日本人にとってわかりにくい。</li><li>・翻訳の内容チェックなど、制作の難易度が高い。</li></ul>

### —参考資料—

「公共交通機関における外国語等による情報提供促進措置ガイドライン」（国土交通省H18）

案内標識により情報提供を行う場合には表示するスペースに限りがあるため、日本語に加え、代表的な言語である英語と、視覚により情報伝達が可能なピクトグラムの3種類を用いた情報提供を行うことを基本とする。

## 英語表記の方法

国の基準に基づき、固有名詞はローマ字、普通名詞は英語で表記する。

\*「観光活性化標識ガイドライン」(国土交通省 H17)

寺院・神社など観光施設等の名称はすべて固有名詞として扱う。

### ●表示の例

表示対象		表示例
山・川	大吉山	Mt.Daikichi-yama
	宇治川	Ujigawa-River
鉄道駅	京阪宇治駅	Keihan Uji Station (Sta.)
通り名	県通	Agata-dori Street(St.)
観光集客施設	平等院	Byodoin Temple
	宇治上神社	Ujigami-jinjya Shrine
	源氏物語ミュージアム	The Tale of Genji Museum

### —参考— 英語表記の方法

A. ローマ字 + 英訳	Ujigami Shrine
B. ローマ字 + ローマ字	Ujigami-jinja
<b>● C. ローマ字 + ローマ字 + 英訳</b>	<b>Ujigami-jinja Shrine</b>

— 外国人に対しても日本人に対しても理解可能なC案を推奨する。

\*ローマ字はヘボン式とする。

\*財団法人 都市づくりパブリックセンター  
「歩行者のためのコミュニティサイン」(H5)



尋ねられた日本人は質問の意味がわからないことがある。



ローマ字の情報をもとに、人(日本人)に尋ねることが出来る。



# 情報計画

## 3) 表記の基準

### 使用書体, 使用ピクトグラム, その他の記号

使用書体	使用ピクトグラム	参考となる記号
------	----------	---------

サインには判読性の高い書体を使用する。

- 以下に標準的な文字の太さ (Medium) の書体を示す。使用する文字の大きさ等に応じて、太い(Bold)・細い(Regular)を使い分け、判読性を高める。
- 日本語については視認性の高いUD(ユニバーサルデザイン)フォントの使用を推奨する。

#### 日本語書体例

A-OTF新ゴPro	Medium	観光都市・宇治のブランドカ
A-OTF UD新ゴ Pro	Medium	観光都市・宇治のブランドカ

#### 英語書体例

Helvetica ヘルベチカ	Medium	ABCD fghijk 012345/,.
Univers ユニバース	55 Roman	ABCD fghijk 012345/,.
Frutiger フルティガー	55 Roman	ABCD fghijk 012345/,.

#### 書体選定のポイント

- 可読性； 文章、文字列としての読みやすさ
- 視認性； 文字を明確に視認できる見易さ
- 識別性； 他の文字と判別でき、誤認しないわかりやすさ

JIS案内用図記号を使用する

\* JIS記号ではない

etc. 宇治らしいオリジナルのピクトグラムが必要かどうか要検討

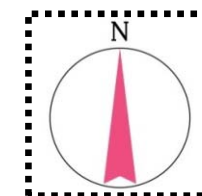
●宇治茶かおり回廊のピクト



●Green Map Uji



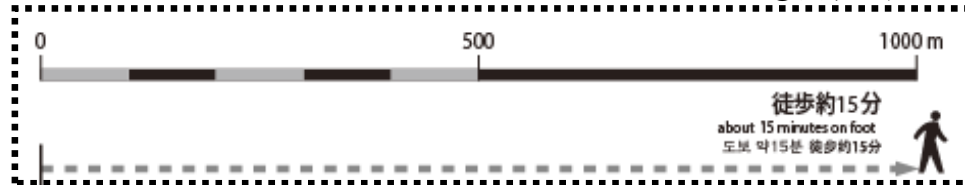
●方位記号



●現在地記号



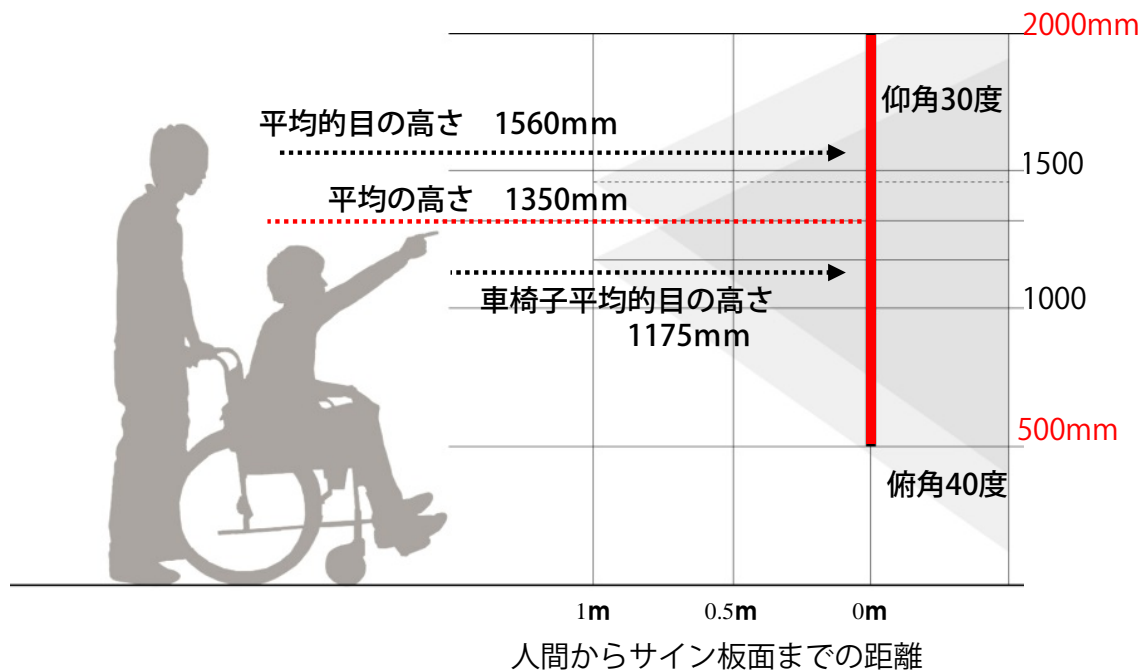
●スケールバー



## 掲出位置の基準

### 表示の掲出高さ（見易さの視点）

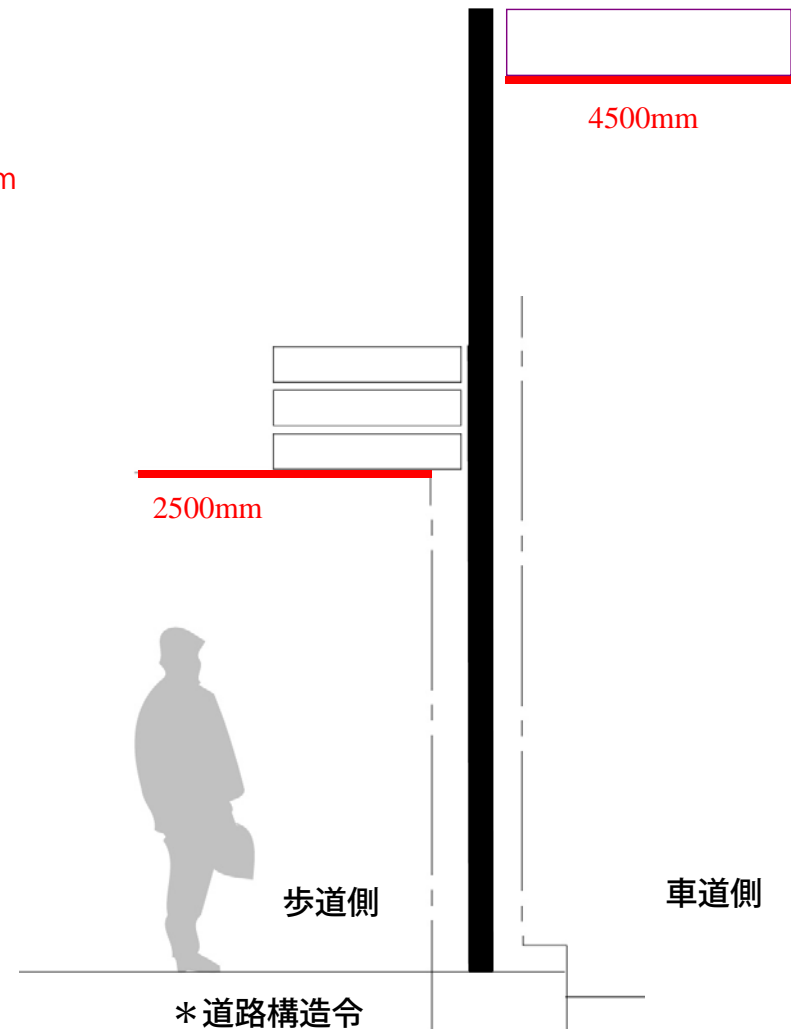
案内サインの掲出高さは、地面から1350mmを中心に、  
最高高さを**2000mm**  
最低高さを**500mm**の範囲を原則とする



\*公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン  
(国土交通省 H19)

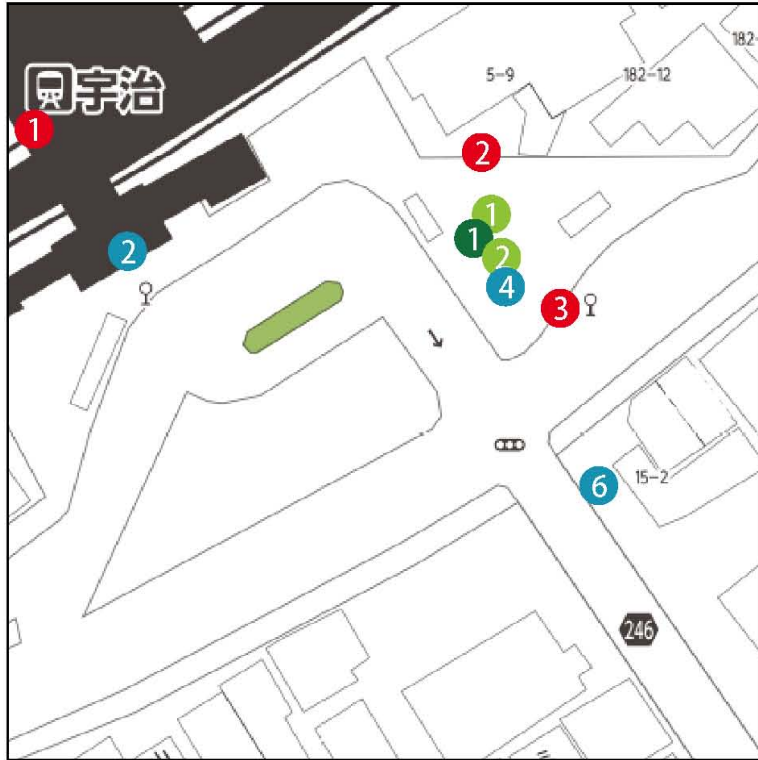
### 表示の掲出高さ（道路構造令より）

誘導サインなど、  
歩道側のサイン板面は下端を地面から**2500mm**以上に設置する  
車道側のサイン板面は下端を地面から**4500mm**以上に設置する



# モデル整備配置案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン→改修（一体化、表示統一） 2



3 案内サイン→撤去



2 誘導サイン→改修（表示の統一）



4 →移設+改修



6 →改修



1 解説サイン→撤去



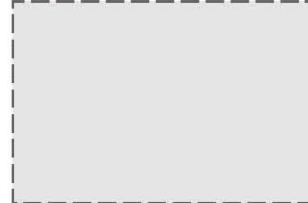
2 →撤去



1 複合サイン→撤去



新 新規案内サイン



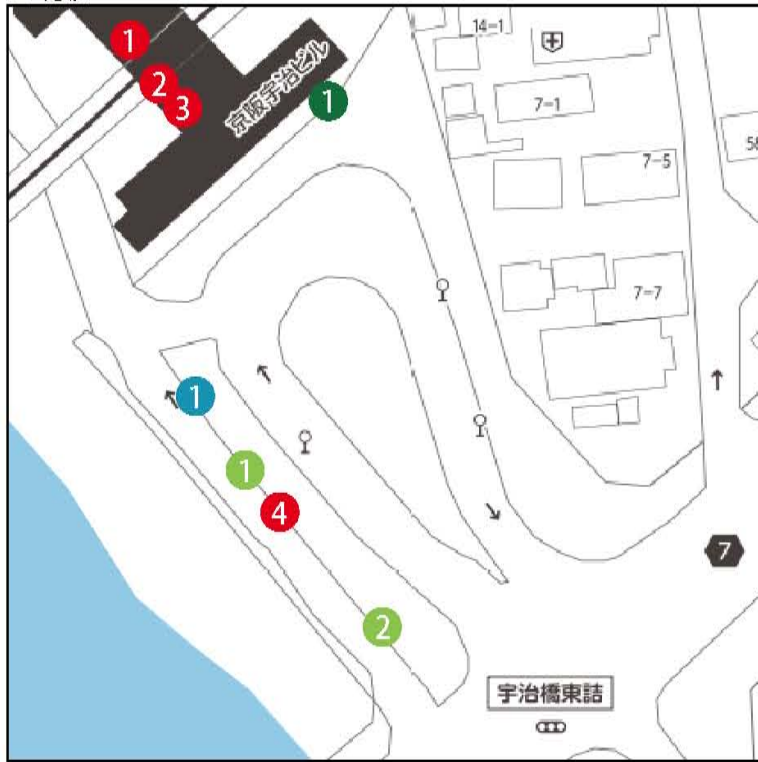
※ 表記がないものは存置とする



モデルプラン：JR宇治駅



■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

- 1 案内サイン (駅) → 改修 (表示の統一)
- 2 → 改修 (表示の統一)
- 3 → 改修 (表示の統一)



- 4 案内サイン → 撤去



- 1 誘導サイン → 移設 + 改修



- 1 複合サイン → 移設 + 改修



地図表示の改修  
オリエンテーリング  
情報の記載

- 1 解説サイン → 撤去



- 2 (オリエンテーリングの案内) → 撤去  
(@複合サインに集約)



※ 表記がないものは存置とする



モデルプラン：京阪宇治駅



■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン→撤去



1 誘導サイン→撤去 3 →撤去



5 →改修



6 →撤去



8 →改修



1 複合サイン→改修



2 →改修



1 解説サイン→撤去 or 改修



2



3



4



1 記名サイン



※ 表記がないものは存置とする



モデルプラン：宇治橋西詰



■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新



※ 表記がないものは存置とする



モデルプラン：あさぎり橋袂



# 今後の課題



# マネジメントシステム

## サイン整備計画の運用

観光案内サインの整備を実行していくにあたり、単なる“モノ”の整備にとどまることなく、宇治市の観光振興にとって、真に実効性のあるものとしていくために考えておくべきことは？

整備計画



実施計画



整備の実施



整備後の維持・管理

事業実施時

計画・方針との整合性； 計画時に目指した方向性とズレはないか  
効果の検証 ; ニーズに対応した整備となっているか

## 検証の手法は？

維持・管理

“モノ”のメンテナンスと“情報”のメンテナンス  
メンテナンスの台帳 ; 誰が、何時、整備したのか  
誰が管理しているのか

## だれが、どのように管理していくのか？

# 參考資料

# 関連事業によるサイン設置及び民間設置のサインについて

## 宇治茶かおり回廊整備

- 京都府の「お茶の京都」プロジェクトでは、山城地域における交流人口の増加を図り、地域の賑わいを創出する「宇治茶かおり回廊」の整備が計画されている。
- このため誘導、案内サインや道路案内サイン、ガイドマップの作成が検討されている。



- 宇治市の観光案内サイン計画との連携を図る。
- サインの配置、デザインについては宇治市の計画で検討していく。
- 「宇治茶かおり回廊」で発信する情報については、宇治市のサインにも取り込んでいくことを検討する。例えば「お茶の京都」のロゴマークとシンボルマークをサインの表記に取り入れるなど。

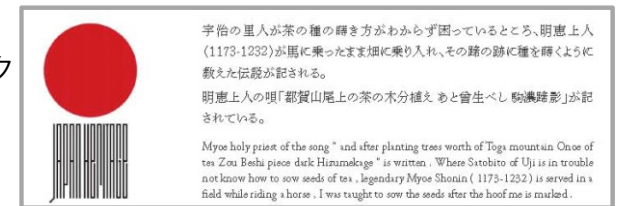
表示色；

	<b>メインカラー：黒 (BLACK)</b> ●印刷 : 特色 DIC 582 : オフセットカラー掛け合わせ [K100] ●モニター : RGB 値 [R0/G0/B0] ●看板サイン : スコッチカル™ (黒) フィルム [JS-1500 ブラック]
	<b>サブカラー：金茶 (GOLD)</b> ●印刷 : 特色 DIC E20 (メタリックゴールド) または 特色 DIC 243 (金茶) : オフセットカラー掛け合わせ [G40+M45+Y80] ●モニター : RGB 値 [R170/G142/B72] ●看板サイン : スコッチカル™ (黒) フィルム [JS-1301 ゴールド] ※ゴールドメタリックの素材を使用することも可 (金茶など)
	<b>サブカラー：常盤緑 (GREEN)</b> ●印刷 : 特色 DIC N-847 : オフセットカラー掛け合わせ [C09+Y100+K38] ●モニター : RGB 値 [R46/G121/B45] ●看板サイン : スコッチカル™ (黒) フィルム [JS-1721 フォレストグリーン]

## 日本遺産

- 「日本茶800年の歴史散歩」～京都・山城が平成27年に日本遺産に認定された。
- 日本遺産ではストーリーを構成する文化財群を整備、発信していくことで、地域の活性化を図っていく。
- 宇治市には白川地区の茶畑、中宇治の街並みなど多くの素材があり、これらの情報の発信に寄与する。

サインの解説  
と日本遺産のロゴマーク



## 民間設置のサイン

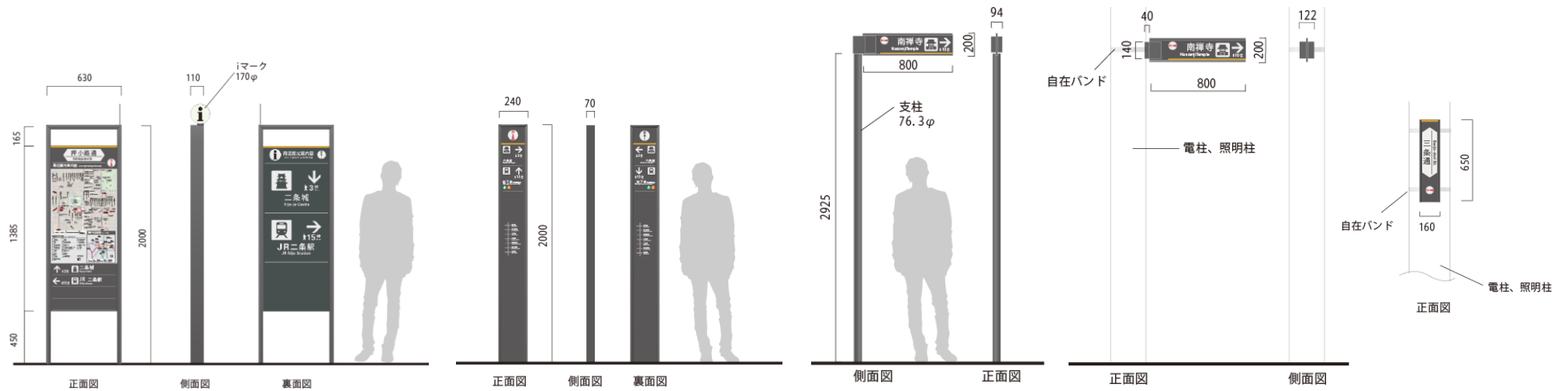
- 宇治川周辺には様々な設置者による、禁止・規制サインが多くみられ、景観上好ましいとは言えない。
- 市街地には観光案内の必要性から、民間により設置されたサインも見受けられる。



- 老朽化しているもの、必要性が希薄なものについては撤去をすすめていく。
- 観光案内の必要上設置されたサインについては、その代替となるサインを検討し、可能であれば置き換えていく。

# 京都市観光案内標識

京都市の観光案内標識の事例を以下に示す。



案内標識

誘導標識 (短冊形)

誘導標識 (矢羽根型)

誘導標識 (共架型-矢羽根・短冊)

